

自己評価報告書

平成23年 4月19日現在

機関番号：13801
研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2008～2011
課題番号：20320101
研究課題名（和文）江川代官所文書の総合的研究

研究課題名（英文）The general approaches to the documents of Egawa-daikansho

研究代表者

湯之上 隆（YUNQUE TAKASHI）
静岡大学・人文学部・教授
研究者番号：30111800

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：近世史

1. 研究計画の概要

中世以来の長い歴史をもつ江川家には、古文書・書画・典籍（和書・漢籍・洋書）・工芸・染織・武器類等、膨大な量の、しかも極めて良質の資料が残されている。本研究の目的と計画は、大きく2点にまとめられる。第一に、それらの資料群のうち、50,000点に達すると推定している、江川家に伝来した中世から近代にわたる江川家文書全点を調査し、目録を作成したうえで、データベース化の作業を行いながら、全容を初めて明らかにし、今後の研究の進展に資するための情報公開を進めることである。

もう一つは、その成果にもとづき、江川家文書の最も重要な特徴を示す、しかも新出の幕末・維新时期史料を中心に、従来十分な研究蓄積をもたない代官所文書の内容や特質、歴史的意義および地方行政・軍事の近代化との関連を明らかにすることにある。

2. 研究の進捗状況

2008年以来、静岡県が調査主体となっている江川文庫調査委員会と連携して、毎年5回程度の全体調査および研究代表者・分担者による個別調査を実施した。調査は伊豆の国市・江川邸で、調査協力者の支援も得て、古文書を中心に、書跡

・典籍・工芸についても実施した他、研究分担者による古写真約1,700点の調査・写真撮影も行った。併せて、江川文庫調査委員会による第1次調査で刊行した報告書の点検作業も実施した。

研究については、重点的な取り組みを推進し、情報の共有と研究の深化を図るため、江川文庫研究会を発足させ、講演・報告を東京大学福武ホールで開催した。第1回、2008年12月6日、記念講演、講師、宮地正人氏（東京大学名誉教授）、演題「江川家史料研究の課題」。第2回、2009年2月20日、報告者、戸森麻衣子氏（日本学術振興会特別研究員）、題目「代官江川氏の手代と家来の歴史的変遷」。第3回、2009年10月9日、報告者、有光友學氏（横浜国立大学名誉教授）、題目「江川文庫所蔵 後北条氏発給文書等の紹介」。第4回、2010年12月7日、東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター・同古写真研究プロジェクトと共催。報告者、谷昭佳氏（東京大学史料編纂所准教授）、題目「幕末・明治初期の写真史における江川文庫古写真コレクションの位置」。

研究の目的の一つとした成果公開に

関わり、国文学研究資料館が公開する「伊豆菰山江川家文書データベース」に反映させて、古文書 20,425 点についての情報と古文書 1,800 点の画像を、インターネットを通じて本格的に公開した。また、研究計画に掲げた、江川文庫調査の状況や意義を周知するための取り組みとして、静岡新聞平成 22 年 1 月 16 日～6 月 26 日夕刊に、研究代表者・分担者・調査協力者の執筆による「歴史の息遣い—江川文庫調査から」と題する 26 回にわたる連載記事を掲載し、県民の関心を喚起することとなった。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由) 古文書全点の調査終了を見通せる段階に達し、併せてデータベースによる研究者への成果公開や、一般への講演会・展示会等による成果公開も順調に進捗している。

4. 今後の研究の推進方策

今後に残された大きな課題は次のとおりであり、関係者の協力を得て、実現に向けた方策を推進したい。

- (1) 調査の完了と総合目録の刊行
- (2) 重要文化財指定—修理、保存
- (3) 調査成果のデータベース化

人間文化研究機構国文学研究資料館との連携を進める。

- (4) 江川文庫の公開—写真撮影の進行
- (5) 研究の推進—講演会、展示会、江川文庫研究会の継続、シンポジウム、資料集・論文集の刊行

- (6) 収蔵・展示施設の建設—公開閲覧整備

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 5 件)

①大塚英二、近世初期有力竈屋の存在形態—瀬戸竈屋三右衛門と三河石飛村伊藤家—、豊

田市史研究、査読無、2号、2011、19-30

②大塚英二、尾張藩御用商人菱屋太兵衛家に関する若干の史料について、愛知県立大学大学院国際文化研究科論集、査読無、11号、2010、29-41

③大塚英二、近世期の土地利用と地域利害の相克、愛知県立大学文学部論集、査読無、57号、2009、75-105

④鈴木淳、北尾重政画『花鳥写真図彙』考—浮世絵師による花鳥画絵本の試み—、『かがみ』(大東急記念文庫)、査読無、39号、2009、83-118

⑤岩井淳、オリヴァ・クロムウェル研究の新動向、静岡大学人文学部『人文論集』、査読無、60号の1、2009、33-50

[学会発表] (計 4 件)

①鈴木淳、谷文晁と『江川家蒐集書画帖』、シンポジウム：古典籍の形態・図像と本文—日中書物史の比較研究—、2010 年 12 月 23 日、中国国家図書館(中国北京)

②保谷徹、江戸湾海防と江川太郎左衛門—伊豆菰山・江川文庫調査から—、開国史シンポジウム：幕末・明治の沿岸防衛の歴史、2010 年 12 月 5 日、横須賀芸術劇場

③岩井淳、ピューリタン革命の三つの顔、イギリス革命史研究会、2009 年 11 月 14 日、明治学院大学

④湯之上隆、伊豆菰山・江川文庫調査から見てきたもの、静岡大学日本史読書会、2008 年 11 月 15 日、静岡大学

[図書] (計 5 件)

①鈴木淳、岩波書店、江戸のみやび、2010、320

②保谷徹、吉川弘文館、幕末日本と対外戦争の危機、2010、232

③杉本史子(共著)、吉川弘文館、日本の対外関係 6 近世的社会の成熟、2010、273-290

④岩井淳、山川出版社、ピューリタン革命と複合国家、2010、90

⑤大友一雄(共著)、岩田書院、『中近世アーカイブズの多国間比較』、2009、29-40